

未来の明海大学を考える

2007年度明海大学浦安キャンパス学友会

サマーキャンプ



全体会(1日目)



活発に意見を交わした分科会(1日目)

2007年9月4日(火)〜6日(木)、鬼怒川温泉(栃木県)ホテルニュー岡部を会場に、2007年度明海大学浦安キャンパス学友会サマーキャンプが行われた。参加者は学生173人、教職員等75人の総勢248人。『未来の明海大学を考える』が今年のメインテーマに据えられた。

まず、原野公輔学友会長から「このサマーキャンプは意見を大学に伝える場、3日間有意義な意見交換を行い、それが明海大学の発展につながるよう」尽力を



主催(学友会)の原野会長(中央)、山崎さん(右)、浅子さん(左)

「お願いします」とあいさつ。続いて高倉翔学友会長がスピーチ。「明海大学が創設された1970年頃は大学紛争の時代でした。それまでは、『大学は教員のためのもの』という考え方が支配的で、学生は無権限でしたが紛争をきっかけに学生も大学の構成員として加えられるようになりました。

その後、浦安キャンパスが創設された時期になると、『学生にとって大学は、家庭・社会に次ぐ第3の生活の場』という考えが定着し、学生の発言権が認められるようになり、大学で生活するすべての人の参加によってこそ、大学の未来が開けてくる。このサマーキャンプで皆さんの考えをまとめていくことが大学の発展の礎になるでしょう」と熱いメッセージを贈った。

教育後援会の谷昭夫会長はサマーキャンプは学生の皆さんの生の声を聞けるチャンス。今回は後援会から6名が来ており、分科会にも参加しますのでよろしくお願いします」とあいさつした。

参加者全員が16班に分かれての分科会では、『施設について』『課外活動の在り方と今後について』『留学生日本人学生及び教職員の交流について』『学内外におけるマナー向上について』の4つのテーマについて話し合い、数時間に及ぶ活発な意見交換が行われた。

2日目にはその分科会の報告会が行われ、テーマごとのまとめが代表者から発表された。

第20回 明海祭

「きらり」 光るもの見つけた?

2007年11月2日(金)から4日(日)の3日間、浦安キャンパスで第20回明海祭が開催された。主催は学友会学園祭実行委員会(浅子)

(委員長)で、今年のテーマは「きらり」。

屋外に作られたメインステージではチアリーディング部や市民参加の太極拳同好会が、円形ステージでは吹奏楽部や軽音楽部などが日頃の練習の成果を披露。その周辺には、焼きそば、たこ焼き、ホットドッグなどたくさんの模擬店が出店し、学生や近隣の住民らでにぎわっていた。

また、近隣の住民も出店するフリーマーケット、H.T.学部の内苑孝美教授の講演会、ルー大柴のトークショー、桜塚やっ



中禅寺湖や東照宮など3コースに分かれ、観光も楽しんだ(2日目)



「カレーうどんいかが?」



毎年好評のフリーマーケット



留学生インタビュー

「留学は僕にとっても、人生のターニング・ポイント」

きれいな日本語でそう語るの、ネパール生まれのタパ・プラカスさん(24歳)。ネパールを訪れる旅行者の60%が日本人であり、両親も「日本なら優しい人が多いし、安心」と後押ししてくれたため、1

ネパールを訪れる人に喜んでもらえるように

本ホスピタリティを学びたい」と留学の道に挑戦。テストにパスし、3年前に来日した。小さいころからNHKの国際放送を見ていたというタパさんだが、日本で習得したのは英語のみ。そのため「最初の4〜5カ月は日本語の勉強が大変でした。それを乗り越えられたのは、自分で頑張ろうと思った気持ちと、家族などみんなの期待があったから。ここでやらなければ恥ずかしいと思います」。

ネパールは農業と観光業で成り立っている国。トレッキングや世界遺産に関心がある人が世界中から集まるが、それを受け入れるホテルや旅行社の人たちに勉強する機会が少ないため、「どうしたらその国の人に喜んでもらえるか?」の視点がまだまだ足りないという。

「レストランやホテル、ゴルフ場などありますが、たくさん作りすぎてダメ

今あるものでどう喜んでもらえるか、ネパールの文化と触れ合ってもらいたい」と一つのテーマだと思えます。

大学に通いつつ飲食店でアルバイトも両立。仕事先の人たちとも意気投合し、勉強も仕事も遊びも、毎日が勉強。11月の明海祭ではなんと留学生で初めて「Mr. 明海」に選ばれた。

「最近、辛いことにもチャレンジしたいと思えるようになり、留学は辛いこともあるけれど、大學生のうちに絶対に経験すべきです!自分がどういう人がかわかり、家族の大切さもわかります」。

将来の夢は、ネパールにホテルを持つこと。タパさんなら、きっとホスピタリティにあふれるホテルを作ってくれるはずだ。

施設については、講義棟だけでなく図書館やグラウンド・体育館などの問題点に触れたほか、「掲示板が情報が氾濫していて、ほしい情報がわかりづらい。ケータイのメールなどを有効活用できないか」などの提案も、課外活動については、新入生歓迎会や、大会出場の際の公休の適用について触れたほか、「新入生にも課外活動がわかるように、ピラを一つにまとめた冊子を作り、プース設置図など

もつけてわかりやすくできないか」などのアイデアを披露。交流については、友人を見つけた場がアルバイト先のほうが多いことなどに触れ、「ボウリングやカラオケなど、ゼミや学科別の対抗スポーツ大会をしたり、学食に異文化交流の場を作ったりしてはどうか」と提案。最後に「マナー向上については、ゴミや落書きなどの問題点を指摘し、「喫煙マナー」についての講習会を開き、その参加者のみに喫煙を許可してはどうか」などの意見を発表した。

「サマーキャンプは、学生から大学側への意見を伝えたり、またその逆があったりと、大学・学生の双方に有益になるのが目的です。



中禅寺湖や東照宮など3コースに分かれ、観光も楽しんだ(2日目)

意識を持って参加している人もいれば旅行気分の人もいますが、きっかけは何であれ、よりよい大学づくりについて考えるきっかけになっていると思います。これを機に、学友会の存在や委員会の活動についてもぜひ知ってほしいですね」と原野学友会会長。

主催/明海大学浦安キャンパス学友会
後援/明海大学浦安キャンパス教育後援会・明海大学浦安キャンパス同窓会

《学生の声》

「普段は自分の学部のことしか知る機会がありませんが、分科会の班のなかには留学生の方もいらっしたので、普段聞けない話を聞くことができました。テーマは交流だったのですが、先生方から『交流会を作ってみてはどうか』という提案をいただき、自分では浮かばなかった案だったので新鮮でした」

(12班議長
飯島脩平さん・英米語学科2年)

「このサマーキャンプでも、留学生が日本人の学生と同じ部屋で泊まったほうが交流になると思います。分科会の意見としても言いました」

(潘ティ毓さん・HT学科3年)

「出された意見をカードに書き、項目別にまとめてみました。みんなが意見を出してくれ、話が広がっていたのでよかった。分科会の議長は2回目ですが、生の意見が聞けておもしろいです」

(4班班長
江間翔太さん・経済学科3年)

《教職員の声》

「とても活発な班で、具体的な話が多く出ていました。屋上緑化や風力、太陽光発電など、これまでは出てこなかったような意見も聞かれました。可能かどうかは別としても、目からウロコでしたね」

(4班 成瀬先生、石塚先生)